

授業科目(ナンバリング)		ダイバーシティとグローバル市民論(AB115)		担当教員	木村勝彦・浦郷淳・川上知子		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	1 年・後期	必修・選択	選択
授 業 の ね ら い							アクティブ・ラーニングの類型
個人の尊厳を大切にし、共に協力し合うことによって社会は成熟していく。そのためには、互いの価値観や生き方を認め合い、それぞれの個性を伸ばすことのできる仕組みの構築が求められる。この授業では、成熟した社会の実現に向けて市民に求められる多様性理解力や、社会の基盤に関する知の獲得を目標とする。							①④⑥
ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標				評価手段・方法		評価比率
専門力	専門の知識や技能を生かす際に課題となる対人関係力の基本を身につける。				レポート及び授業中の発言		10%
情報収集、分析力	課題に関する情報を的確に収集し、分析した上で活用する。				レポート及び授業中の発言		10%
コミュニケーション力	他の受講生の意見を傾聴し、それに対して自分の意見を述べるなど円滑な対話をすることができる。				グループ活動の取組み		30%
協働・課題解決力	与えられた課題をグループで役割分担して調べ、解決に向けた討論をすることができる。				レポート及びグループ活動の取組み		30%
多様性理解力	社会における多様性を理解し、それに基づく主体的な発言や行動をすることができる。				レポート及びグループ活動の取組み		20%
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
この授業の前半ではダイバーシティや市民社会の基本的理解に関する講義、後半では市民社会のさまざまな課題についての講義を聴いて、班ごとに討論し意見を取りまとめる。またレポートをもとに班ごとのテーマを設定して調べ、順番に全体で発表する。評価基準はグループ活動への取組みやレポート提出の状況とする。							
授 業 の 概 要							
授業の前半では担当教員が各回の内容に沿って出す課題、後半では市民社会が抱える具体的な問題について各自が調べてレポートを作成するとともに、班ごとのテーマに取組むこととなる。したがって講義を傾聴することはもちろん、授業外の主体的な学修が求められる。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：特に指定しない。 参考書：西原和久・杉本学（2021）マイノリティ問題から考える社会学・入門、有斐閣 指定図書：荒巻恵子（2019）インクルージョンとは、何か？、日本標準							
授業外における学修及び学生に期待すること							
ダイバーシティという言葉は広く使用されるようになってきたが、その意味・内容やそれが問題とされなければならない理由について理解している人は少ない。この授業を通して、ダイバーシティが何を意味しているのかを理解するとともに、その知見を主体的に活かすことができるようになることが期待される。また、市民社会の生活を支えるセーフティネットの具体的な課題を自分自身の問題として受けとめ、安全安心な学生生活の実現に結びつけて欲しい。そのためには、十分な時間をかけて課題レポートを作成し、グループ活動にも積極的に参加することが必要である。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	ダイバーシティと市民社会の考え方 (授業の目標及び内容)	この授業全体のオリエンテーションを行う。目標を明確にし、授業全体のグランドデザインを基に学習内容や方法について理解する。(木村・浦郷・川上)	(予)シラバスを読み、授業の概略をつかむ。 (復)ダイバーシティと市民社会の意味を整理する。
2	日常に潜む無意識の言動	日常生活に潜む無意識の「ものの見方やとらえ方の歪み・偏り」からダイバーシティと市民社会について考える。(川上)	(予)アンコンシャスバイアスについて調べる。 (復)アンコンシャスバイアスについて整理する。
3	ダイバーシティ思想の歴史	ダイバーシティという考え方の誕生とその後の歴史的経緯について理解する。(木村)	(予)ダイバーシティの歴史について調べる。 (復)ダイバーシティの考え方について整理する。
4	ダイバーシティと市民社会	ダイバーシティの基本的概念を理解するとともに、市民社会におけるその意義を考える。(浦郷)	(予)市民社会の意味とその範囲を調べる。 (復)市民社会で自分ができることを考える。
5	ダイバーシティとインクルージョン、そして共生社会へ(1)	班ごとに、4回目までの授業をもとに、多様性が存在する社会を共生社会とするためには何が必要かを議論し、意見をまとめる。(木村・浦郷・川上)	(予)4回目までの授業内容を整理しておく。 (復)議論を通して自分の考えを整理する。
6	ジェンダーの定義と意義	ジェンダーの意義を理解し、女性の社会進出について考える。(木村・浦郷・川上・ゲストスピーカー)	(予)ジェンダーの意味について調べる。 (復)ジェンダーに関する課題を整理する。
7	性におけるマイノリティ	性におけるマイノリティを理解し、多様な性自認の人々の共生を考える。(木村・浦郷・川上・ゲストスピーカー)	(予)性におけるマイノリティについて調べる。 (復)性におけるマイノリティの課題を整理する。
8	障がいがある人々との共生	障がいがある人と障がいがない人との共生はいかにあるべきかを考える。(川上)	(予)障がいがある人々を支える施策を調べる。 (復)多様な人々の共生のあり方を整理する。
9	ダイバーシティとインクルージョン、そして共生社会へ(2)	班ごとに、共生社会を実現するための提言をジェンダーやマイノリティの視点をもとに発表する。(木村・浦郷・川上)	(予)ジェンダーやマイノリティの問題を整理する。 (復)自分自身の考えをまとめる。
10	市民社会と政治	成熟した市民社会を目指す政治のあり方について考える。(木村・浦郷・川上・ゲストスピーカー)	(予)市民社会を目指す政治のあり方を調べる。 (復)市民社会において政治がもつ意義を整理する。
11	市民社会と行政	市民社会における行政の課題と展望について、佐世保市を実例として考える。(木村・浦郷・川上・ゲストスピーカー)	(予)佐世保市が抱える課題を調べる。 (復)佐世保市の行政の現状について整理する。
12	市民社会と防犯	治安の仕組みと市民の役割を理解し、市民社会における防犯について考える。(木村・浦郷・川上・ゲストスピーカー)	(予)市民社会における防犯の必要性を調べる。 (復)市民社会における防犯上の取組みを整理する。
13	市民社会と防災	緊急時の救援体制を理解し、市民社会における防災について考える。(木村・浦郷・川上・ゲストスピーカー)	(予)市民社会における防災の必要性を調べる。 (復)市民社会における防災上の取組みを整理する。
14	市民社会と消費生活	市民社会における消費行動の現状と問題点を知り、消費者としての留意点や生活の安全を考える。(木村・浦郷・川上・ゲストスピーカー)	(予)消費行動の問題点を調べる。 (復)消費者としての自身のあり方を整理する。
15	安全・安心な未来社会の構築	市民社会における安全・安心な生活の構築に向けて市民が果たすべき役割を班ごとにまとめ、発表する。(木村・浦郷・川上)	(予)これまでの学習内容を整理しておく。 (復)課題レポートをまとめ、提出する。